

国府地域包括支援センター 担当

日 時： 令和7年 4月15日（火）午後1時30分～1時50分

会 場： 栃木市役所 401 会議室

事例数： 1ケース（R6年10月15日検討した事例の振り返り）

参加者数： 11名

〔事例提供者1名、助言者6名、包括職員2名、傍聴者2名〕

両目緑内障による視力低下、視野欠損があり、歩行が不安定な81歳女性

〈目標〉1日：時間がかかっても洗濯を続ける。

1年：歩けるようになって、外出したい。

利用サービス：介護予防通所リハビリテーション

《前回会議での支援策》

支援方針：今後ますます視力が低下した場合でも、歩行能力が維持できるようにリハビリを継続し、洗濯が継続できるようなアドバイスをすることで、自宅での役割を持って生活が続けられるよう支援する。

助言内容

- ① 緑内障は失明率が高く、施術が適用であれば、できるだけ手術を受けることが望ましい。
- ② 今後インプラント治療をする場合には、主治医とよく相談して決めていく。
- ③ 口の渇きは薬や点眼薬の影響も考えられるため、医師に相談して薬を調整してもらう。
- ④ 今後も本人の状態に合わせて、家庭内で役割（洗濯）が続けられるよう、やり方の工夫や環境調整が必要。
- ⑤ カルシウムだけではなく、肉や色のついた野菜を摂取して、骨粗しょう症を予防する。
- ⑥ 役割や社会とのつながりを切らないためにも、買い物に行く機会を作る。

《支援結果・状況》

- ① 未達成：治療はなく、いつかは失明することを受け入れ覚悟もしている。
- ② 達成：インプラントがあるため、定期的に歯科通院していく。
- ③ 達成：口の渇きは水分摂取により改善された。
- ④ 達成：家族の思い・協力を得て、無理なく自分でできる範囲の家事を行うようになった。
- ⑤ 達成：家族と同じもの・固いものも摂取できている。
- ⑥ 達成：家族の協力があり買い物や外出する機会がある。通所リハビリテーションも気分転換になっている。